

会議等出席報告書

報告者氏名 議席番号6番 中野 智基

第1 会議等概要

出席した第14回全国市議会議長会研究フォーラムの概要は下記のとおり。

1 開催日時

令和元年10月30日（水）午後1時から午後4時50分、31日（木）午前9時から午前11時まで

2 開催場所

高知ちばさんセンター（高知県高知市）

3 主催

全国市議会議長会

4 開催目的

全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する政策課題等についての情報や意見の交換を行い、地方分権の時代に即した議会機能の充実と活力に満ちた地域づくりに資することを目的に開催されている。

なお本研究フォーラムでは、地方分権改革の進展や地方創生の推進により、都市に対して基礎自治体としての役割が一層期待される中、市民の負託と信頼に的確に応えるべく、議会の更なる機能向上策を研究することを主題に講演及び討議等が行われた。

5 プログラム内容

ア 第1日目

第1部 基調講演

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

講演者 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

中島 岳志

第2部 パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井 ゆづる 朝日新聞論説委員

パネリスト 高部 正男 市町村職員中央研修所学長

横田 響子 株式会社コラボ代表取締役/

お茶の水女子大学客員准教授

古川 康造 高松丸亀町商店街振興組合理事長

第3部 意見交換会

イ 第2日目

第4部 課題討議

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井 ゆづる 朝日新聞論説委員

事例報告者 滝沢 一成 上越市議会議員

久坂 くにえ 鎌倉市議会議員

小林 雄二 周南市議会議員

第2 報告まとめ

本研究フォーラムは、第1部の基調講演にて中島岳志氏が、「リベラル保守という可能性」を演題とし、一見対義語のように思われるリベラルと保守の歴史的背景や、その意義を説明された。リベラルはキリスト教の宗教改革が進められていく中で発生した概念であり、個人の自由を尊重し寛容であること。そして保守はフランス革命（左派の革命）の反省を発端とし、人間の完成不可能性を認識した上で、合意形成を図り微調整を重ねながら改革を進めていくという概念であると主張された。

なお、リベラルと保守は対義語ではなく、リベラル（寛容）の対義語はパターナル（権威主義）であると説明され、戦後の政権の移り変わりを横軸にリベラル（寛容） $\longleftrightarrow$ パターナル（権威主義）、縦軸をリスクの社会化（大きな政府） $\uparrow\downarrow$ リスクの個人化（小さな政府）というマトリクスを用いて当てはめた。例えば、中島岳志氏が尊敬するという、大平正芳政権はリベラル（寛容）の立ち位置にあり、リスクの社会化（大きな政府）を図り、田中角栄政権はパターナル（権威主義）・リスクの社会化（大きな政府）、小泉純一郎政権はリベラル（寛容）・リスクの個人化（小さな政府）、安倍晋三政権はパターナル（権威主義）・リスクの個人化（小さな政府）であると分析している。国政の流れも、リスクの社会化（大きな政府）からリスクの個人化（小さな政府）へ時代とともに移り変わり、リスクの個人化（小さな政府）を進めていくと、公の仕事が少なくなり、政治家の仕事（ここでは税金の再分配を言われている）が少なくなる。その結果2大政党となり、その2大政党間の違い（税金再分配の方法策の違い）も少なくなり、同じような政策とならざるを得ず、国民は政治に興味がなくなり、投票率が下がってしまっているのが現在の状況なのではと主張された。

寛容であり、個人の自由を尊重するリベラルは、行き過ぎると自己責任論に発展していき、行き過ぎた弱肉強食の世界を生み出してしまう。そこに、人間の考えは多様であり、かつ不完全であるから多くの人の意見を聴きながら微調整を行う伝統的な保守の思想をもって現在の世を改革していくべきではないかという、中島岳志氏の「リベラル保守という可能性」という演目の講演であった。

中島氏がていねいに解説するリベラルと保守は、私も含め多くの人達が普段漠然と思い込んでいた、政治の色分け的な保守とリベラルとは異なるものである。リベラルと保守の中島氏の解説を通じて、政治は世論に敏感でありすぎるが所以、国民が自信を失えば父権的な政治に傾き、またその逆もしかりである。政治とは人間の多様性を尊重し、それぞれの利害を永続的に微調整を続けることが最重要課題であることを強く再認識させられた。

第2部以降は、高知出身の国民的英雄である、坂本龍馬の船中八策にならない「議会活性化のための船中八策」をテーマとし、現場の課題とその実現方をパネルディスカッションや課題討議等にて議論を深めた。

社会や経済の急速な構造変化を背景に、多様化する民意を市政へ反映させるため、どのように民意を集約し合意形成を図っていくかが強く問われている。第2部で行われたパネルディスカッションでは、民間人と議会人を交え、市議会に対する問題提起がなされるとともに議論が行われた。

- 議会や議員の権能、二代表制の意義の認識向上
- 議員のなり手不足解消に向けての改革の必要性
- 議員の多様性促進
- 選挙制度の見直しによる投票率向上
- 地元への極端な利益誘導の是正

第2日目に行われた課題討議では、上越市議会議員、鎌倉市議会議員、周南市議会議員の3名が、それぞれの市議会における議会改革への取組事例発表を行うとともに、坪井ゆづる氏をコーディネータとし討議が行われた。

コーディネーターからの問いかけに、それぞれの市議会代表が事例を交え討議を行うのであるが、議会の活性化について各市より様々な取組事例が発表された。

- 市議を目指しやすい環境整備検討検討会の設置
- 模擬議会の実施
- 選挙マニュアルの作成

- 議員報酬の適正化
- 女性が議員を目指しやすい制度整備
- 市民と議員の懇談を行う委員会懇談会

討議を重ねる中で、議会改革も対する考え方や温度差を感じた次第である。その議会の歴史的、政治的背景や、所属議員の多様性によるものが多いのではないか。やはり、市議会内において政治的に安定していたほうが議会活性化のための改革は進めやすいであろうし、また議員構成が多様であったほうが様々な視点により議論が深められることは間違いないであろう。

本市議会も現在、議会改革検討47項目について、議会運営委員会や議会改革特別委員会において審議を行っている最中である。つい先日も、市民モニター制度導入に向け、合意形成が図られ実現に向け具体的に動き始めたところであるが、ここから政策提言につなげるためどのように制度設計していくかが重要となる。有意義な議論を行うためには、議員各々の法的知識レベルアップ、ディスカッション能力の向上、及び的確な市民ニーズの把握も併せて努力していかなければならない。

今後、より一層議会活性化を図っていくため、議論のための議論や政治感情的な対立は控え、市民福祉の増進が第一目標であることを忘れずに、議会改革や政策提言に取り組んでいく所存である。